

付属品

箱の中には、構成部品の他に下記の付属品が入っています。(構成部品については、本文を参照ください。)

(CU-H9700)

- ナビ本体用取扱説明書
- サービス相談窓口一覧表
- ミュージックホルダプリインストール楽曲一覧表
- 地図データベース・ランドマーク一覧表
- VICS情報有料放送サービス契約約款
- 取付要領書(本書)
- ショートピン
- Javaシステムコンテンツ取扱説明書
- 保証書

(CU-H9700VP)

- ナビ本体用取扱説明書
- サービス相談窓口一覧表
- ミュージックホルダプリインストール楽曲一覧表
- 地図データベース・ランドマーク一覧表
- VICS情報有料放送サービス契約約款
- 取付要領書(本書)
- テレビ部取扱説明書
- Javaシステムコンテンツ取扱説明書
- 保証書

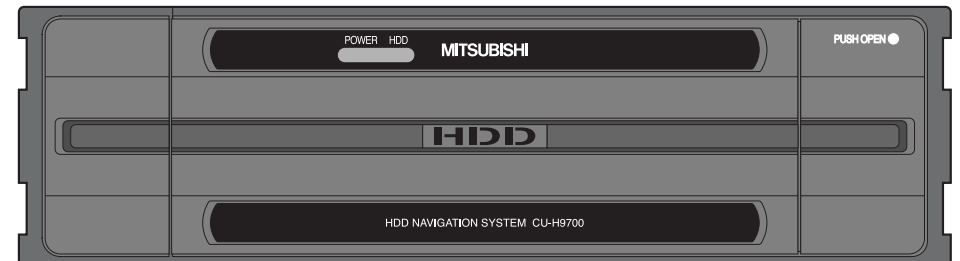
MITSUBISHI

CAR NAVIGATION SYSTEM

MODEL

CU-H9700シリーズ (製品型名
CU-H9700, CU-H9700VP)

取付要領書



目次

はじめに

ご注意とお願い 2

取付要領

取り付け位置について 5

ナビゲーションユニットの取り付けかた 6

ディスプレイアダプターの取り付けかた 8

テレビチューナーの取り付けかた 9

マイクの取り付けかた 10

ディスプレイの取り付けかた 11

GPS アンテナの取り付けかた 14

フィルムアンテナの取り付けかた 15

リモコン受光ユニットの取り付けかた 20

ナビゲーション本体用リモコンの取り付けかた 20

ドライビングリモコンの取り付けかた 21

ドライビングリモコンの電池の入れかた 22

接続要領

接続のしかた (CU-H9700 の場合) 23

接続のしかた (CU-H9700VP の場合) 25

接続のしかた システムアップ例 (当社製 TV/MD センターユニットを使用する場合) 27

接続のしかた システムアップ例 (CU-H9700VP) 29

コネクタの脱着について 31

ブレーキ信号の取り出しかた 31

車速信号について 31

圧着式コネクタの使いかた 32

ショートピンの使いかた 32

リバースコードを接続する 32

接続確認

接続確認のしかた (動作チェック) 33

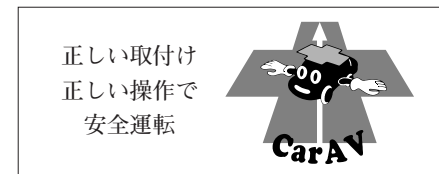
付属品 裏表紙

ご注意とお願い

●取り付けおよび接続作業の前に「取付要領書」をよくお読みの上、正しく作業を行ってください。

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示とともに取り扱い上の注意点を記載しています。

絵表示は次のような意味を示しています。



警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると人が傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。

	してはならない「禁止」の行為を示します。
	必ず実行していただく「強制」の行為を示します。
	「注意」(警告を含む)を示す内容を示します。

警告

安全上お守りいただきたいこと

取り付け・配線について

- 24V 車で使用しない**
 - 本機はDC12V⊖アース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車で使用しないでください。火災などの原因となります。
- 運転操作を妨げる場所に取り付けない**
 - 前方の視界を妨げる場所や運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けしないでください。交通事故やけがの原因となります。
- エアバッグ動作を妨げる場所には取り付けない**
 - エアバッグシステム装備車の場合は、エアバッグシステム動作の妨げになる場所に取り付けしないでください。交通事故の際、エアバッグシステムが正常に機能せず危険です。

ご注意とお願い (つづき)



保安部品のボルトやナットは使用しない

- 車体のボルトやナットを使用して機器を取り付けたり、アースをとるときは、ステアリング、ブレーキ系統やタンクなどの保安部品のボルトやナットは絶対に使用しないでください。これらを使用しますと、事故や発火の原因となります。



燃料タンクなどに穴をあけない

- 車体に穴をあけるときは裏側に何も無いことを確かめ、燃料タンクなどに穴をあけないように注意してください。また配線を傷つけないように注意してください。



バッテリーを接続したまま配線しない

- 配線作業中は、バッテリーの⊖端子を外してください。⊖端子を外さずに作業するとショート事故による感電やけがの原因となります。



タコ足配線をしない

- 電源コードの被覆を破って、他の機器の電源を取ることは絶対にお止めください。コードの電源容量をオーバーし、火災、感電の原因になります。



コード類はまとめておく

- コード類は運転操作の妨げとならないよう、まとめておくなどしてください。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと危険です。



規定容量以外のヒューズを使用しない

- ヒューズが切れたときは、規定容量(アンペア数)のヒューズと交換してください。規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災の原因となります。



すべての電装品の動作を確認する

- 取り付けと配線が終わったら、すべての電装品が元通り正常に動作することをお確かめください。正常に動作しない状態で使用すると火災や感電、事故の原因となります。



分解、改造はしない

- 機器を分解したり、改造しないでください。事故、火災、感電の原因となります。

分解禁止



注意

安全上お守りいただきたいこと

取り付け・配線について



本機の実取り付け・配線には、専門技術者に依頼する

- 取り外し、取り付けには専門技術と経験が必要です。安全のため必ず「お買い上げの販売店」に依頼してください。



本機を車載用として以外は使用しない

- 感電やけがの原因となることがあります。



説明書の指示に従い配線する

- 「取付要領書」の指示に従い配線してください。正規の接続を行なわないと、火災や事故の原因となることがあります。



高温になる所へは取り付けない

- 熱の影響を受けやすいヒーターの吹き出し口の近くには取り付けしないでください。機器が加熱し、火災の原因となることがあります。



通風孔や放熱板をふさがない

- 機器の通風孔や放熱板をふさがないでください。通風孔や放熱板をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



指定以外の部品を使用しない

- 必ず付属の部品を指定通り使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして危険です。



コードのはさみ込みに注意する

- 車体やねじ部分、シートレール等の可動部にコードをはさみ込まないように注意してください。断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。



コードの被覆を傷めない

- 車両部品のバリ(部品加工時にできる鋭利な突起)や鋭利な場所にコードが接触する場合は、コードの被覆を傷めないように必ずクッションテープなどで保護してください。火災や感電の原因となることがあります。



本機を不安定なところに取り付けない

- 本機を振動の多いところなど、しっかりと固定できないところに取り付けしないでください。走行中に機器が落下するなどして、事故やけがの原因となることがあります。



エアバッグ装着車は、車両メーカーの注意事項をよく確認する

- エアバッグが誤動作する原因となることがあります。



アンテナは車長、車幅からはみ出さない

- アンテナはエレメントが車幅または、車の前後からはみ出さない場所を選んで取り付けてください。歩行者などに接触して思わぬ事故の原因となることがあります。



アンテナは、確実に固定する

- テレビアンテナの取り付け場所は、きれいに拭き取ってください。また、フッ素樹脂コートされたボディ、ガラス及び再塗装されたボディに両面テープで貼り付けしないでください。走行時の振動等でアンテナが外れて落下し、思わぬ事故の原因となることがあります。



アンテナコードの車内への引き込みには十分気をつける

- 雨、水が車内へ浸水すると車内を汚染し、火災の原因となることがあります。



水のかかるところやほこりの多いところへは取り付けない

- 雨が吹き込むところなど、水のかかるところや湿気やほこりの多いところへの取り付けは避けてください。機器内部に水や湿気、ほこりが混入しますと発煙や発火の原因となることがあります。

取り付け位置について

国土交通省の定める道路運送車両の保安基準の改正(平成17年1月1日)に伴い、下記内容にて運転者の視界を確保することが必要となりました。ダッシュボード付近に本製品を取り付ける場合、保安基準に適合するよう運転者の視界(下記内容)を妨げないように取り付けください。

前方視界基準 (新車及び使用過程車に適用する直接視界基準)

対象車種 ① 専ら乗用の用に共する自動車(乗車定員11人以上のものを除く。)
② 車両総重量が3.5トン以下の貨物自動車(いずれも使用過程車を含む。)

適用時期 平成17年1月1日

基準概要

- (1)要件 自動車の前方2mにある高さ1m、直径0.3mの円柱(6歳児を模したものを鏡等を用いず直接視認できること。
(2)適用除外 Aピラー(窓枠のうち車両最前にあるもの)、ワイパー及びステアリングホイールにより死角となる部分。

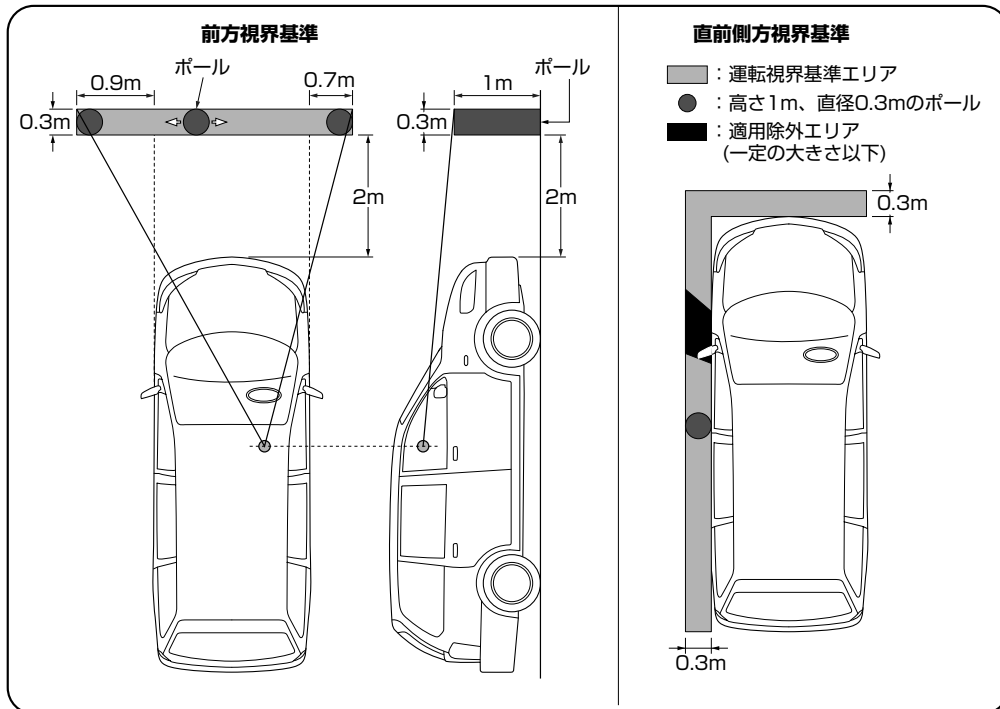
直前側方視界基準 (新車に適用する間接視界基準)

対象車種 軽自動車、小型自動車及び普通自動車(乗車定員11人以上のもの及び車両総重量8トン以上又は最大積載量5トン以上のものを除く。)

適用時期 新型生産車：平成17年1月1日以降に製作された自動車
継続生産車：平成19年1月1日以降に製作された自動車

基準概要

- (1)要件 自動車の前面及び左側面(左ハンドル車にあっては右側面)に接する高さ1m、直径0.3mの円柱(6歳児を模したものを)を直接に又は鏡、画像等により間接に視認できること。
(2)適用除外 ① Aピラー(窓枠のうち車両最前にあるもの)及び室外後写鏡による一定の大きさ以下の死角
② ワイパー、ステアリングホイールにより死角となる部分。

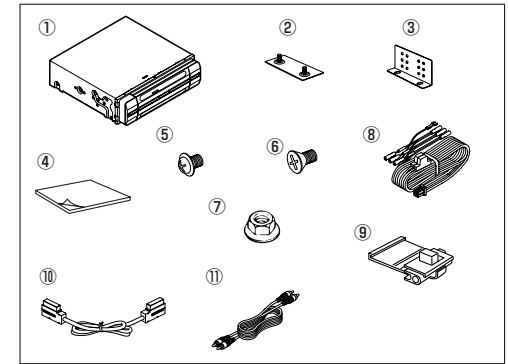


※いずれの基準も左ハンドルの場合には左右逆となります。

ナビゲーションユニットの取り付けかた

構成部品

- ① ナビゲーションユニット・・・1
- ② 取付ベース・・・2
- ③ 取付ブラケット・・・2
- ④ 両面接着テープ・・・2
- ⑤ カップスクリュー(M5×8)・・・4
- ⑥ サラネジ(M5×8)・・・4
- ⑦ 六角ナット(M6)・・・4
- ⑧ 電源コード(ナビ本体用)・・・1
- ⑨ 圧着式コネクター・・・3
- ⑩ 接続コード・・・1
- ⑪ ピンプラグコード・・・1 (CU-H9700のみ)



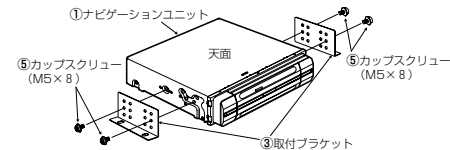
取り付けかた



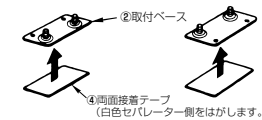
●本機に強い衝撃を与えないでください。落下したりたたくなどして機器に衝撃が加わると故障の原因となることがあります。

フロアカーペット上に取り付ける場合 (フロントシート下部、トランクルーム等)

1 ①ナビゲーションユニット側面に③取付ブラケットを下向きに⑤カップスクリューで取り付けます。

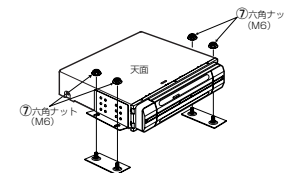


2 ②取付ベースの裏側に④両面接着テープを貼り付けます。

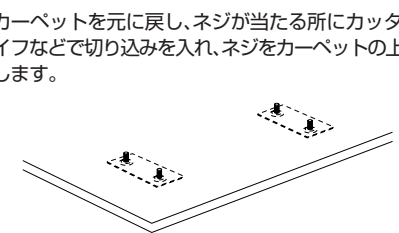


3 ②取付ベースと③取付ブラケットを⑦六角ナットで仮止めしたあと、カーペットをめくり、取り付け位置を決め、床に②取付ベースを貼り付けます。

●②取付ベースを貼り付ける床面の汚れは、きれいにふきとってください。

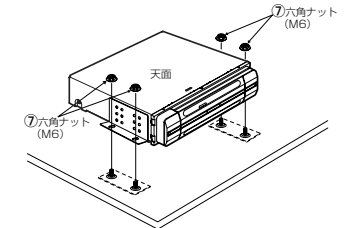


4 ②取付ベースと③取付ブラケットの仮止めを外し、本体を取り外します。



5 カーペットを元に戻し、ネジが当たる所にカッターナイフなどで切り込みを入れ、ネジをカーペットの上に出します。

6 カーペットの上に出したネジと③取付ブラケットのネジ穴があうように本体を置き、⑦六角ナットでしっかりと固定します。



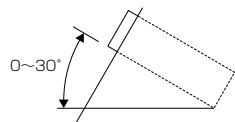
トランクルームに取り付ける場合、別売接続コード(DD-2222FM-4LS)と、電源延長コード(LE-58DG-4)が必要です。

ナビゲーションユニットの取り付けかた (つづき)

オーディオスペースに取り付ける場合

ご注意

- 取り付けの角度は、水平～30° の範囲で使用ください。範囲外で使用した場合、誤動作、故障の原因となります。



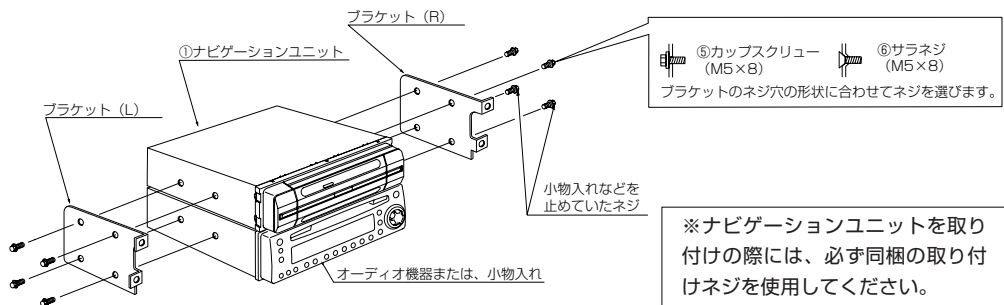
1. 車両側オーディオスペースのオーディオ機器、小物入れなどを取り外します。

既に装着されているオーディオ機器、小物入れなどを外してください。

2. ナビゲーションユニットを取り付けます。

取り外したオーディオ機器、小物入れなどを止めていたブラケットを使用して、ナビゲーションユニットをオーディオスペースに取り付けます。(ナビゲーションユニットは上段に取り付けてください。)

●年式、車種、グレードにより、専用取付キット(別売)が必要な場合がありますので、詳細については、お買い上げ店または、最寄りの地区別サービス店(別紙サービス相談窓口一覧をご覧ください。)へご相談ください。

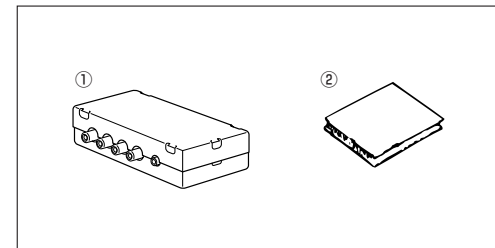


※ナビゲーションユニットを取り付けの際には、必ず同梱の取り付けネジを使用してください。

ディスプレイアダプターの取り付けかた (CU-H9700付属)

構成部品

- ①ディスプレイアダプター …… 1
- ②マジックテープ …………… 1



取り付けかた

●本機はマジックテープを使用してフロントシート下部に取り付けます。

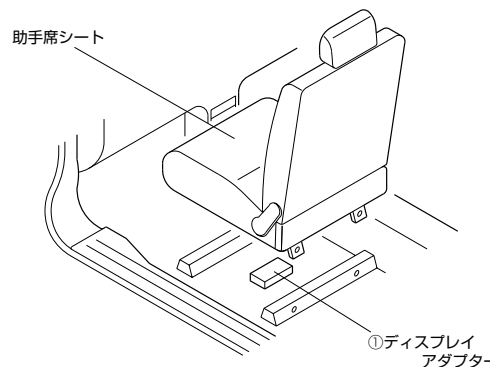
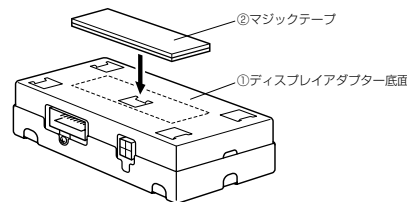
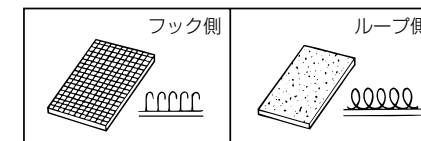
1. ②マジックテープのフック側のセパレーターをはがし、①ディスプレイアダプター底面に貼り付けます。

2. ②マジックテープのループ側のセパレーターをはがし、フロアカーペット上に貼り付け①ディスプレイアダプターを固定します。

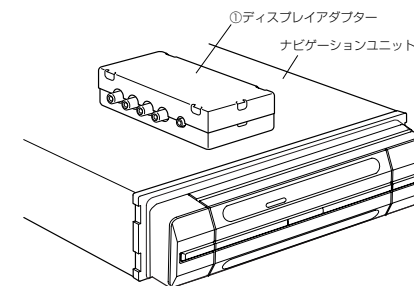
注意

フロアカーペットが毛足の有るタイプの場合、マジックテープの粘着剤が効かないことがあります。この場合はマジックテープのフック側のみでフロアカーペットへ固定してください。

②マジックテープ



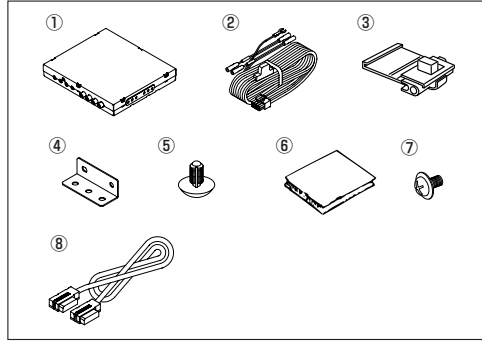
フロントシート下にナビゲーションユニット等を設置している場合は既設機器の上部に①ディスプレイアダプターを貼り付けてください。



テレビチューナーの取り付けかた (CU-H9700VP付属)

構成部品

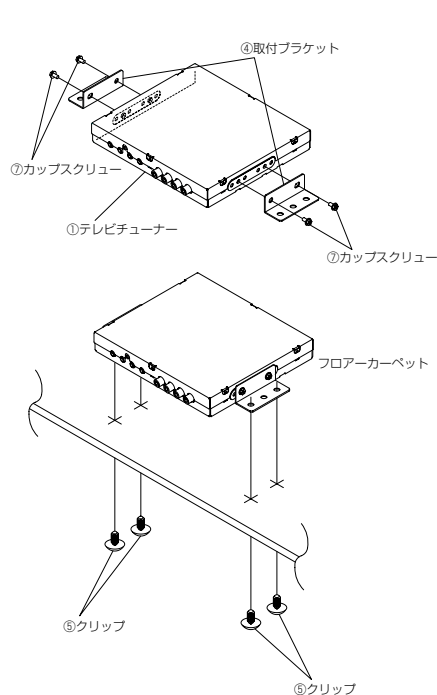
- ① テレビチューナー…… 1
- ② 電源コード
- ③ 圧着式コネクター…… 1
- ④ 取付ブラケット…… 2
- ⑤ クリップ…… 4
- ⑥ マジックテープ…… 2組
- ⑦ カップスクリュー…… 4
- ⑧ 接続コード…… 1



取り付けかた

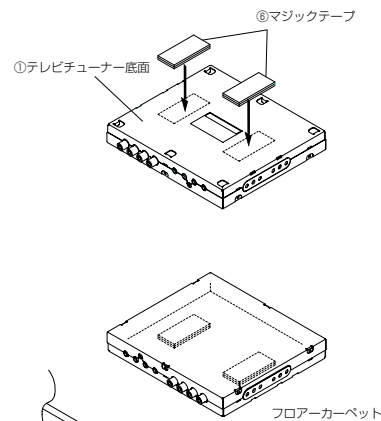
取付ブラケットを使用して固定する場合

1. 本機側面に④取付ブラケットを⑦カップスクリューで固定します。
2. 取り付け位置を決め、取付ブラケットの穴からフロアカーペットにペン等でマーキングします。
3. マーキングしたところをカッターナイフ等で十字に切り込みを入れます。
4. ⑤クリップ先端を切り込みより通し取付ブラケットの穴に通し①テレビチューナーを固定します。



マジックテープを使用して固定する場合

1. ⑥マジックテープのフック側のセパレーターをはがし①テレビチューナー底面(両端)に貼り付けます。
2. マジックテープのループ側のセパレーターをはがしフロアカーペット上に貼り付け、①テレビチューナーを固定します。



〈助手席シート下への取付例〉

ここに記載されている取付例は、ほんの一例です。詳細については、お買い上げ店または、最寄りの地区別サービス店(別紙サービス相談窓口一覧表をご覧ください。)へご相談ください。



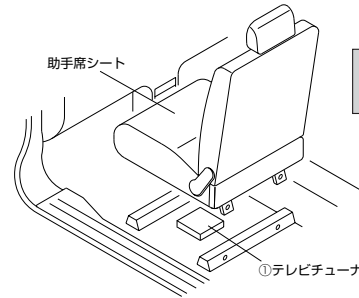
警告

急ブレーキ、急ハンドル等により、本機が移動すると危険です。シート下への取り付けは確実に行ってください。できる限り取付ブラケットとクリップを使用して固定してください。

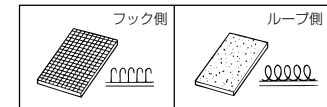


注意

フロアカーペットが毛足の有るタイプの場合、マジックテープの粘着剤が効かないことがあります。この場合はマジックテープのフック側のみでフロアカーペットへ固定してください。



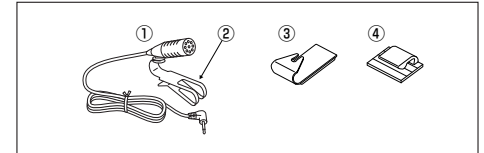
⑥マジックテープ



マイクの取り付けかた

構成部品

- ① マイク…… 1
- ② クリップ(サンバイザー取付用)…… 1
- ③ クリップ(コラムカバー取付用)…… 1
- ④ コードクランプ…… 6

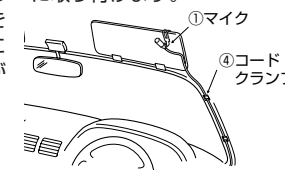


！注意事項

- マイクは発話する人の口もとから20～40cmの距離のところ、口元に向けて取り付けてください。
- マイクからの距離が近すぎたり、遠すぎたりすると誤認識の原因となります。
- コラムカバーに取り付ける場合、メーター等の視界を妨げず、ステアリング操作等に支障のない位置を選んでください。
- マイクと発話する人の間に障害物があるような取り付けは避けてください。
- マイクが口元に向いていないと、車内の騒音が大きいときに誤認識が多くなります。
- サンバイザーを下げた状態ではマイクが発話する人の方を向かないため正しく認識できません。
- **マイク取付位置はサンバイザーを推奨します。**
(コラムカバーに取り付けた場合は、一部の車種で振動、騒音等の影響により、十分な認識性能が得られないことがあります。)

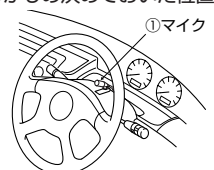
サンバイザーにマイクを取り付ける場合

- サンバイザーを上げた状態で①マイク(サンバイザー取付用クリップ付)が発話する人の方へ向くようにクリップでサンバイザーに取り付けます。
- マイクのコードを④コードクランプにて要所を固定しながら引き回します。



コラムカバーにマイクを取り付ける場合

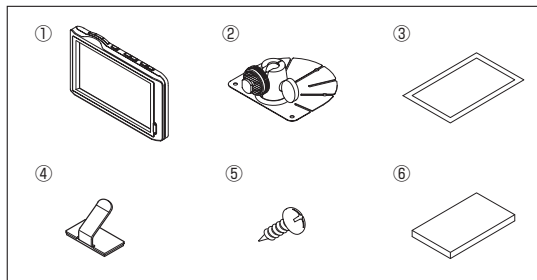
- ①マイクに付いている②サンバイザー取付用のクリップを③コラムカバー取付用のクリップに付け替えて、ハンドルコラム上のあらかじめ決めておいた位置に両面テープで固定してください。
- マイクのコードを④コードクランプにて要所を固定しながら引き回します。



ディスプレイの取り付けかた (CU-H9700VP付属)

構成部品

- ①ディスプレイ…………… 1
- ②ディスプレイスタンド…………… 1
- ③クリーナー(テープ貼付面清掃用)…………… 1
- ④クランパー…………… 5
- ⑤タッピングネジ(テープ接着補強用)…………… 3
- ⑥クッション材(ダッシュボード保護用)…………… 1



ご注意

- ディスプレイスタンドの取り付けは安全のためしっかり固定できる場所(ディスプレイ底面がダッシュボードに当たる場所など)へ貼り付けてください。また、ダッシュボードの材質によって(PPポリプロピレン製など)は、両面接着テープだけでは強い接着力が得られないので、付属のタッピングネジ3本を使用してしっかりと固定してください。この場合、ダッシュボードに穴があきます。取り付ける面が強い曲面の場合は接着面積が小さくなり不安定になるため、取り付けないでください。
- 助手席にエアバッグ(SRS AIRBAG)が装着されている車両に取り付ける場合は、絶対にエアバッグ動作の妨げになる場所にディスプレイスタンドを取り付けしないでください。交通事故の際、エアバッグが正常な機能を発揮できなくなり危険です。カーディーラーなどにご相談の上取り付け位置を決めてください。
- 直射日光が長時間当たっていた場合などは金属部分が高温になり、やけどをする可能性があります。角度調整は温度が下がってから操作してください。
- ディスプレイスタンドに付属のディスプレイ以外のものを取り付けしないでください。
- 熱の影響を受けやすいヒーターの吹き出し口の近くやドア近くの雨水のかかりやすい場所には取り付けないでください。

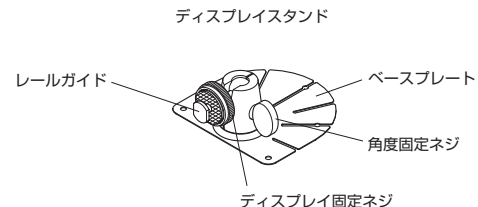
取り付けかた

取付作業前の準備

- 気温が低い(20℃以下)場合は、両面接着テープの初期接着力が弱まります。ヒーターで車内を暖めてから貼り付けてください。
- 貼り付け場所の汚れはよく拭き取ってから貼り付けてください。
(※必ず付属の③クリーナーをご使用ください。)

ディスプレイスタンドを貼り付ける部分にレーザーワックスなどの表面保護材が塗布されている場合は、両面接着テープの接着力が著しく低下しますので、クリーナー等を使用して貼り付け面をきれいに拭き、完全に乾いてから貼り付けてください。両面接着テープは一度はがすと再度接着することはできませんのでご注意ください。

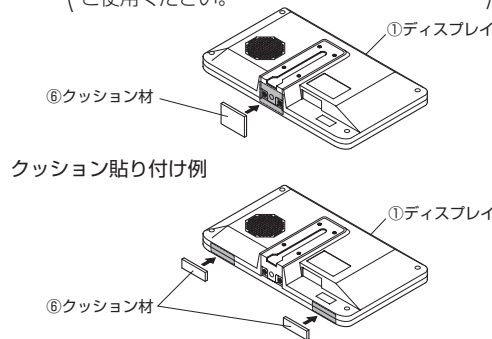
各部の名称



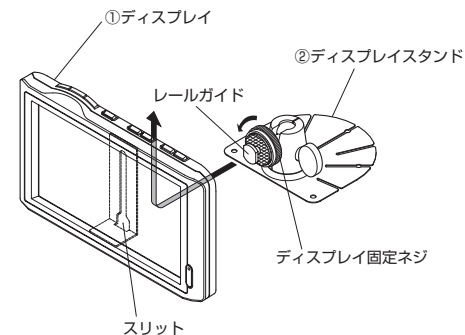
ダッシュボード上への取り付け

1 ディスプレイとディスプレイスタンドを仮止めする。

1. ⑥クッション材のセパレータをはがし①ディスプレイの底面に⑥クッション材を貼り付けます。
(取り付け位置により⑥クッション材を切ってください。)
2. ①ディスプレイのスリットに②ディスプレイスタンドのレールガイドを下図のように差込みディスプレイ固定ネジを回し仮止めをします。

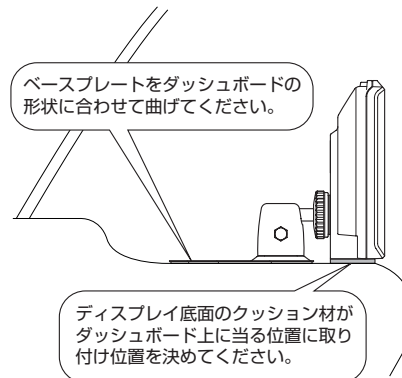


クッション貼り付け例



2 取り付け位置を決める

- 上記の作業を終了したセットをダッシュボードに当てて、取り付け位置を決めます。
(※この時、ベースプレートの裏面の両面接着テープの赤色のシートは、はがさないでください。)



警告

運転席から見てディスプレイが視界を妨げないことを確認してください。視界が妨げられる場合、取付場所を変更してください。



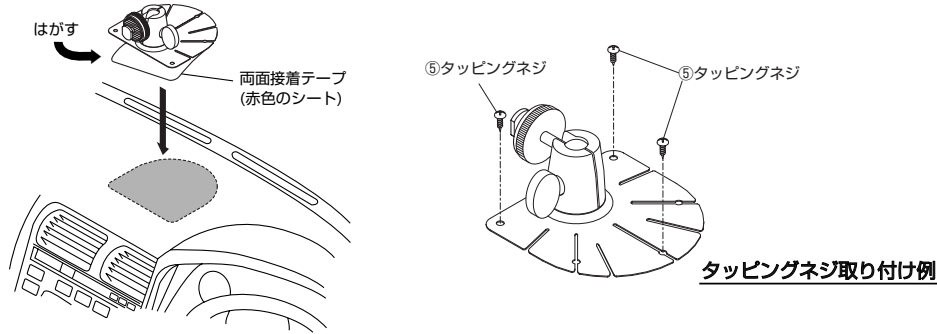
注意

付属のドライビングリモコンを使用する場合は、ディスプレイの受光部で確実にドライビングリモコンの信号が届くのを確認して位置を決めてください。

ディスプレイの取り付けかた (つづき)

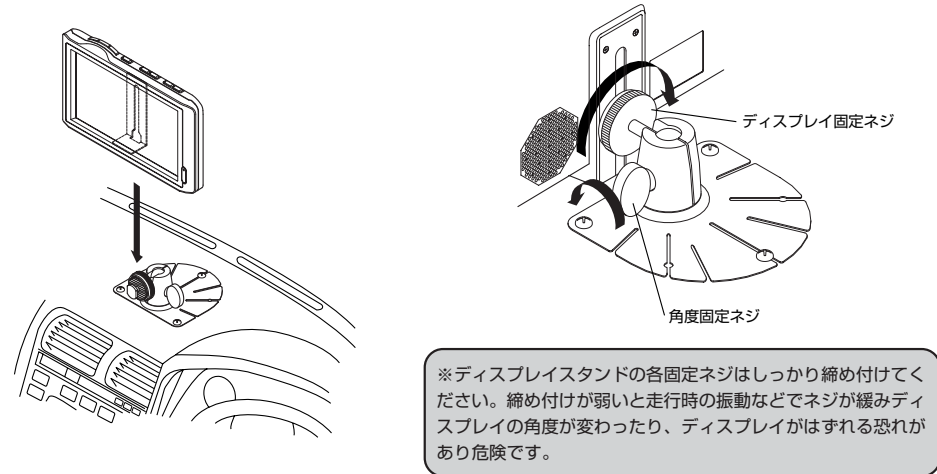
3 ディスプレイスタンドを取り付ける

1. 仮止めしたディスプレイとディスプレイスタンドを一度はずします。仮止めで決めた取り付け位置にディスプレイスタンドのスタンドベース裏面の両面接着テープの赤色のシートをはがしダッシュボードにしっかりと貼り付けます。
(ディスプレイスタンド貼り付け面の汚れを③クリーナーを使って取り除いてください。)
2. ⑤タッピングネジ3本でディスプレイスタンドをダッシュボードにしっかりと固定します。(ダッシュボードには穴があきます。)



4 ディスプレイを取り付ける

- ディスプレイとダッシュボードに取り付けたディスプレイスタンドを作業1と同要領にて取り付けます。ディスプレイを安定させるのにディスプレイ底面をダッシュボードに当るようにしてディスプレイ固定ネジと角度固定ネジを調整して締めてください。



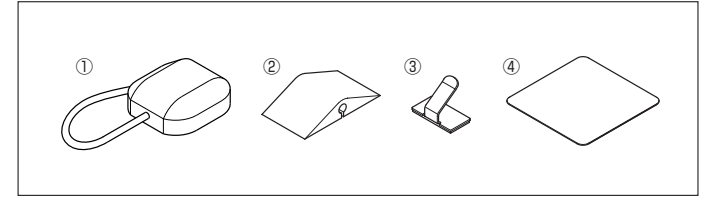
取り外しかた

- 貼り付け面の隅の方からゆっくりと引きはがしてください。
- 気温が低い時は、車内のヒーターを入れるか、ドライヤーなどで貼り付け面をあたためるときれいにはがせます。
- 万一、両面接着テープの接着剤が残った場合も、指でこすってはがすことができます。
- 一度接着した両面接着テープは再使用できません。

GPSアンテナの取り付けかた

構成部品

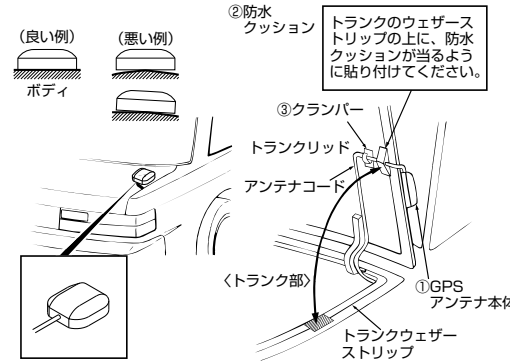
- ①GPSアンテナ…………… 1
- ②防水クッション…………… 1
- ③クランパー…………… 2
- ④グランドプレート…………… 1



取り付けかた

トランクリッドに取り付ける場合

- GPSアンテナ本体は磁力で付くようになっていますが、しっかりと取り付けるために、平らな面に取り付けてください。



アンテナのケーブル長が不足する場合は、別売GPSアンテナ延長コード(LEAD-ANT94-5 5m)を使用してください。

フロントダッシュボードに取り付ける場合

- GPSアンテナ本体はダッシュボードの中央付近を避けてフロントガラスに近い位置に取り付けてください。
(ダッシュボード中央付近にGPSアンテナ本体を設置するとセンターコンソールに設置されている周辺機器からの影響で受信感度が低下することがあります。)



リヤトレイボードに取り付ける場合

- GPSアンテナ本体は、リヤトレイボードのリヤガラスに近い位置に取り付けアンテナコードはリヤトレイボードのすき間におし込みます。



- 熱線リヤガラス及びリヤガラスアンテナ装備車は取り付け位置によりGPS衛星からの電波が受信しにくい場合があります。
 - ・車室外取り付け時と同程度の受信感度が得られる場所に設置してください。
 - ・一部の特殊ガラスを採用している車では電波が遮断され受信できなくなるので、トランクリッドまたはフロントダッシュボードへ取付けてください。

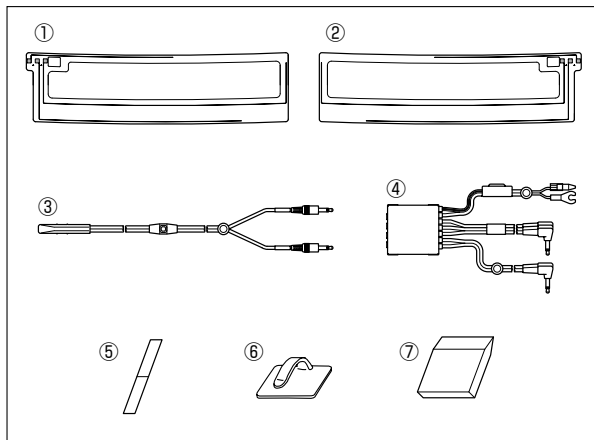
！注意事項

- GPSアンテナ本体を車内に取り付ける場合、必ずグランドシートを使用してください。またグランドシートを小さくする等の加工をしないでください。十分な受信感度が得られなくなります。
- GPSアンテナ本体の設置場所は、GPS衛星からの電波がさえぎられない場所で、なるべく平らで水平な面を選んでください。
- GPSアンテナコードは、必要に応じてクランパーを使用して車両に固定してください。
- GPSアンテナコードの配線はテレビやラジオのアンテナコードから離してください。近づけて配線するとテレビやラジオに妨害を与えることがあります。
- GPSアンテナ本体は、ナビゲーションシステム本体、周辺機器及びそれらの接続コードの近くに取り付けしないでください。近くに取り付けると受信感度低下の原因となることがあります。

フィルムアンテナの取り付けかた(CU-H9700VP付属)

構成部品

- ① アンテナ A.....1
- ② アンテナ B.....1
- ③ アンテナケーブル(2本1組).....2
- ④ アンテナコード(アンプ付).....1
- ⑤ アースプレート(2枚/1シート).....1枚
- ⑥ クランパー.....16
- ⑦ スキージ.....1



ご注意

取付作業前に

- ・貼り付け・配線をするためには、フロントウインドウ周りの内装を一時的に取り外す必要がありますので、ご了承ください。
- ・車種によって、取り付けられない場合があります。販売店にご相談ください。
- ・熱線反射ガラスや断熱ガラス、電波不透過ガラスなど電波を通さないガラスを使用している車種の場合には受信感度が極端に低下します。
- ・ピラーにフロントエアバッグを搭載している車には、取り付けすることが出来ません。
- ・必ずフロントウインドウの指定の位置・寸法内に貼り付けてください。
- ・保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。
- ・本製品は、フロントウインドウ専用です。車体の側面(ドアやフロントクォーターウインドウなど)や、後面(リアウインドウ)に貼り付けると、受信感度が低下する場合があります。
- ※ 保安基準は、道路運送車両の保安基準第29条第4項第7号に対する、平成11年12月27日付の運輸省(当時)告示第820号をいいます。
- ・取り付け作業中に、中性洗剤の水溶液を使用しますのでダッシュボードを汚さないように、布やシートなどで覆って作業ください。
- ・アンテナ表面保護用ビニールをはがしたあと、アンテナ貼付面には手をふれないでください。指紋やゴミが付着し、とれません。
- ・アンテナを接続する機器の説明書も併せてご覧ください。

一度貼り付けると、粘着力が弱くなるため貼りなおしできません。必ずコードおよびアンテナを仮止めし、コードの配線などを十分に検討してから貼り付けてください。

貼付位置について

- ・保安基準に適合させるため、また性能を十分発揮するために、必ず下記の位置に貼り付けてください。
- ・左ハンドル車の場合も、下図のとおりに貼り付けてください。(左右逆に貼らないでください。)
- ・車検証、検査証と重ならない様に貼付してください。
(左右の目安としてはフロントウインドウの端から120mm程度離れた位置)

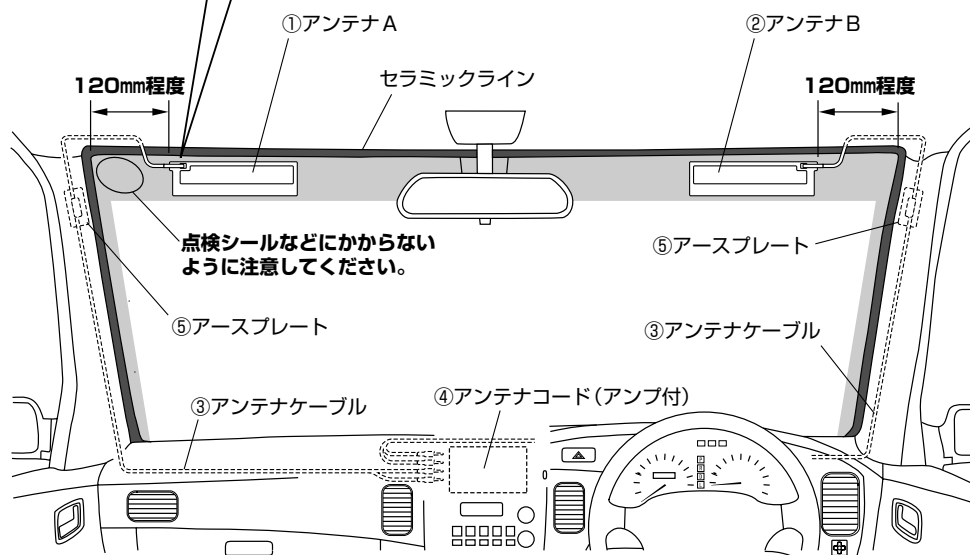
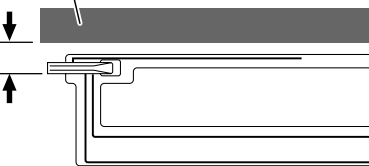
ご注意

貼付許容範囲(部)について

- ・アンテナの金属部は、必ず貼付許容範囲内に貼り付けてください。
- ・貼付許容範囲外に貼り付けると、国土交通省の定める保安基準に適合しません。

セラミックライン(ウインドウの黒い縁)の上には貼り付けてください。

25mm
以内



アンテナ貼付位置(車内側)

フィルムアンテナの取り付けかた (つづき)

コードの配線のしかた

1 内装 (ピラー・ルーフライニング) を取り外す。

2 コードを配線する。

- 実際に配線する前に、コード類をテープなどで仮止めて、端子がアンテナの金属部に貼り付けられることを確認してください。また、必要に応じてアンテナの位置も微調整してください。

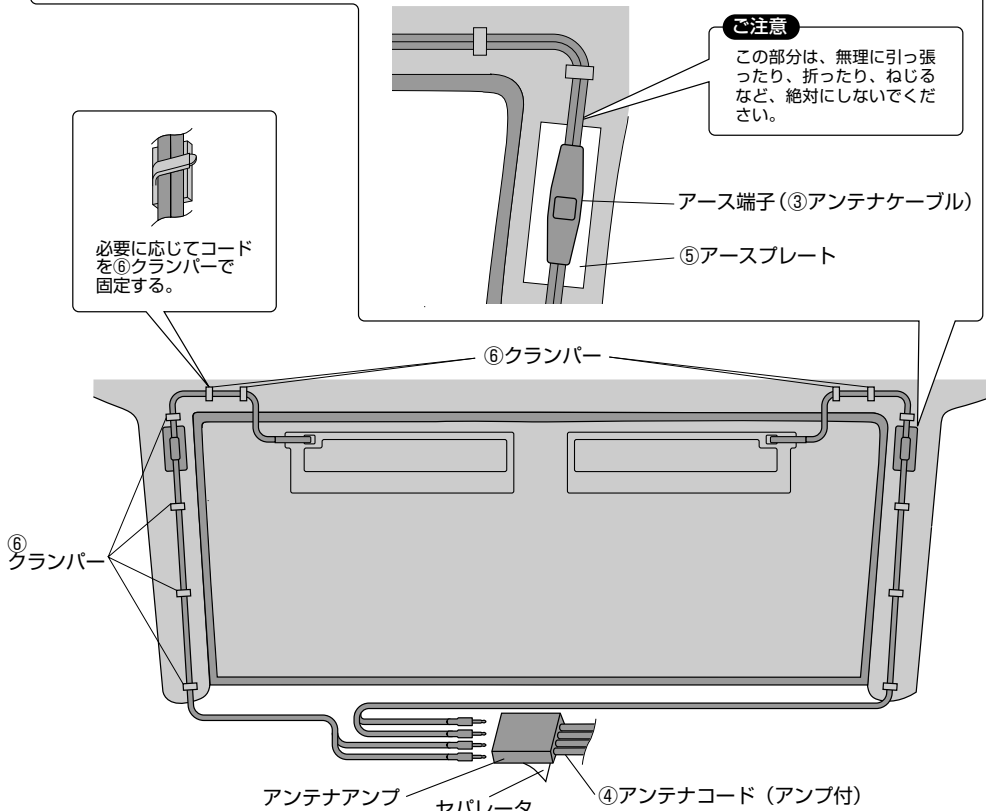
3 車体の金属部に⑤アースプレート・アース端子 (③アンテナケーブル) の順に貼り付ける。(2ヶ所)

- アンテナの性能を十分に発揮させるために、⑤アースプレート・アース端子 (③アンテナケーブル) は、左右2ヶ所とも平らな面にしっかりと貼り付けてください。
- 貼り付ける部位の汚れをきれいに拭き取ってから貼り付けてください。(はがれる原因となります。)

ご注意

この部分は、無理に引っ張ったり、折ったり、ねじるなど、絶対にしないでください。

必要に応じてコードを⑥クランパーで固定する。



4 ④アンテナコード (アンプ付) をセンターコンソール裏などに貼り付ける。

- セパレータをはがし、貼付部位にしっかりと固定してください。
- 左ハンドル車に取り付ける場合は、アンテナアンプ (④アンテナコード) を運転の妨げにならない場所に十分考慮し配置してください。(特に、アクセル・ブレーキ周辺には配置しないでください。)

アンテナの貼り付けかた

(あらかじめ、フロントウインドウのほこりや汚れ、くもり止めを拭き取ってください。)

1 中性洗剤の水溶液※を霧吹きなどでフロントウインドウ (車内側) に吹き付ける。

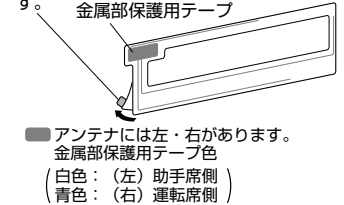
※水500ccに対し、中性洗剤1~2滴が適量です。(濃度が高いと、アンテナがうまく貼り付きません。)

- 中性洗剤の界面活性剤 (ぬめり) を利用して、貼付位置を微調整するので、必ず中性洗剤の水溶液を吹き付けてください。(水ではうまく微調整できません。)

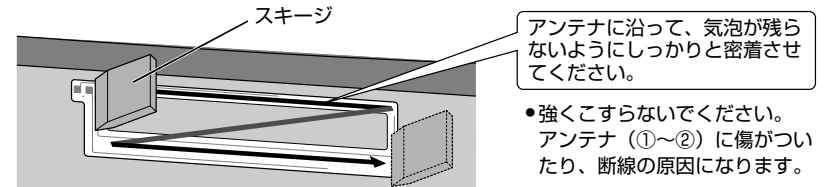
2 裏シートをはがして、アンテナ (①~②) を貼りつける。

- 金属部保護用テープは、まだはがさないでください。金属部に中性洗剤の水溶液がかかって故障の原因になります。
- 作業中にフロントウインドウが乾いた場合は、再度中性洗剤の水溶液を吹き付けてください。
- 貼付位置がずれた場合は、フロントウインドウが濡れている間に貼りなおしてください。

- 中性洗剤の水溶液をフロントウインドウに吹き付けて、アンテナを貼り付け、気泡が入らないようにスキージで密着させる。
- ガラス貼付面の保護フィルムは、ここから剥がす。



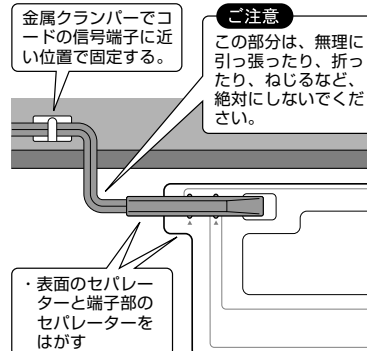
3 ⑦スキージで、アンテナ (①②) をしっかりと密着させる。



- 強くこすらないでください。アンテナ (①~②) に傷がついたり、断線の原因になります。
- フロントウインドウ (車内側) の余分な中性洗剤の水溶液を拭き取ってください。拭くときにアンテナ (①②) を動かさないように気を付けてください。
- そのまま4~5時間放置し、十分に乾燥させてください。

4 ③アンテナケーブルの信号端子をアンテナ (①②) の金属部に貼り付ける。

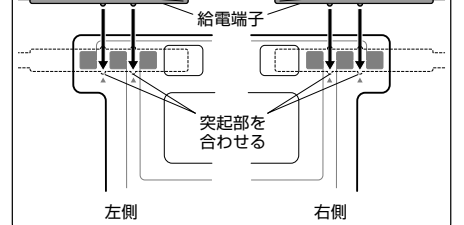
- 端子がしっかりと貼り付くように、アンテナ (①②) の金属部の周りをもう一度きれいに拭いてください。



端子の貼付位置及び方向

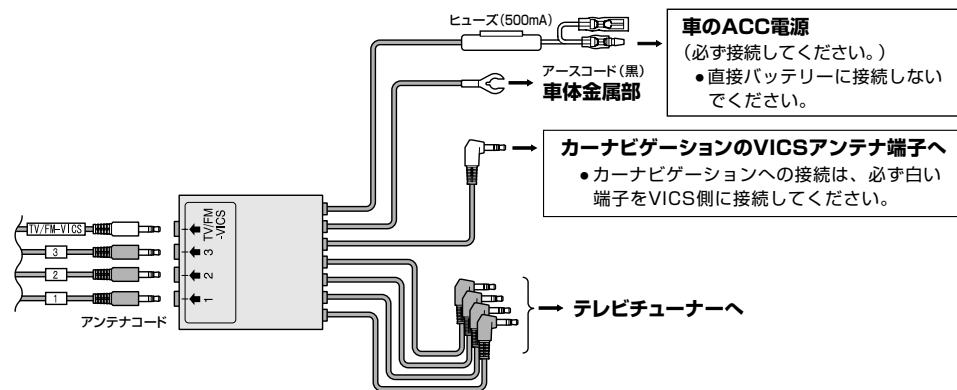
端子の突起部を、アンテナの目印に合わせて貼り付ける。

- 端子の貼付位置がずれると、アンテナの金属部の接触が悪くなり十分な性能が発揮できません。下図を参照し、正確に貼り付けてください。



フィルムアンテナの取り付けかた (つづき)

5 配線する。(外部アンプやフロントスピーカーのコードとはできるだけ離してください。)



6 内装(ピラー・ルーフライニング)をもとに戻す。

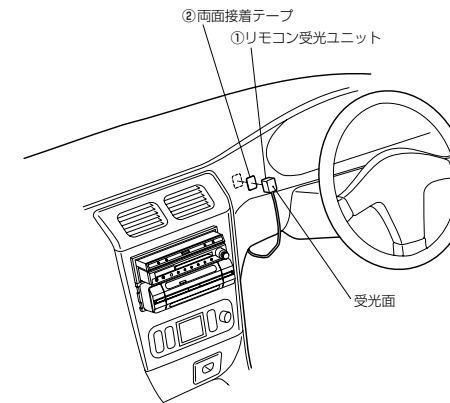
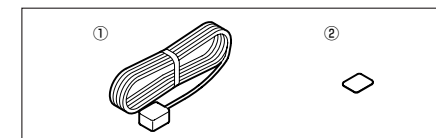
リモコン受光ユニット(CU-H9700付属)の取り付けかた

構成部品

- ① リモコン受光ユニット…………… 1
- ② 両面接着テープ…………… 1

！注意事項

① リモコン受光ユニットは直射日光が差し込まない場所へ取り付けてください。直射日光が入るとリモコンが効かなくなることがあります。ダッシュボード及び助手席の下等に付属の②両面接着テープで貼り付けてください。両面接着テープを貼り付ける面は、きれいに汚れをふきとってください。付属のドライビングリモコンを使用する場合は、リモコン受光ユニットの受光部で確実にドライビングリモコンの信号が届く位置を確認して決めてください。
本ユニットは他社ディスプレイ接続時にお取り付けください。当社ディスプレイ接続時はディスプレイに受光部が内蔵されている為使用しません。



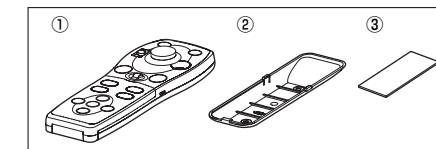
ナビゲーション本体用リモコンの取り付けかた

構成部品

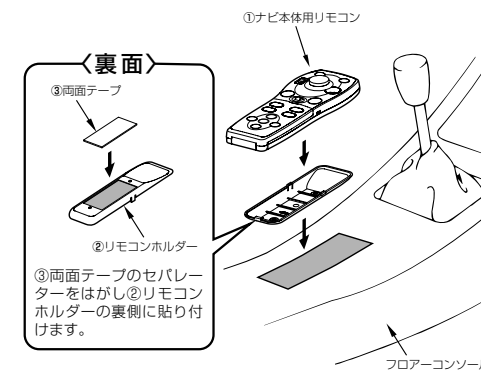
- ① ナビ本体用リモコン…………… 1
- ② リモコンホルダー…………… 1
- ③ 両面テープ…………… 1

！注意事項

リモコン操作が容易に行える場所を決めてから③両面テープで固定してください。③両面テープを貼り付ける面は、きれいに汚れをふきとってください。



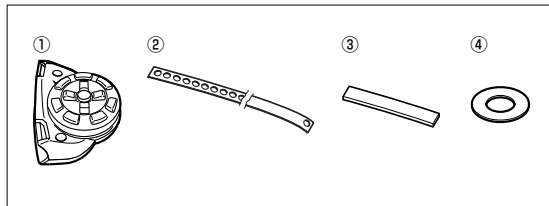
(例) 下記は代表的な例です。運転操作の妨げにならない場所に取り付けてください。



ドライビングリモコンの取り付けかた

構成部品

- ①ドライビングリモコン・・・ 1
- ②取付バンド…………… 4(予備2本を含む)
- ③両面接着テープA…………… 2(予備1個を含む)
- ④両面接着テープB…………… 2(予備1個を含む)



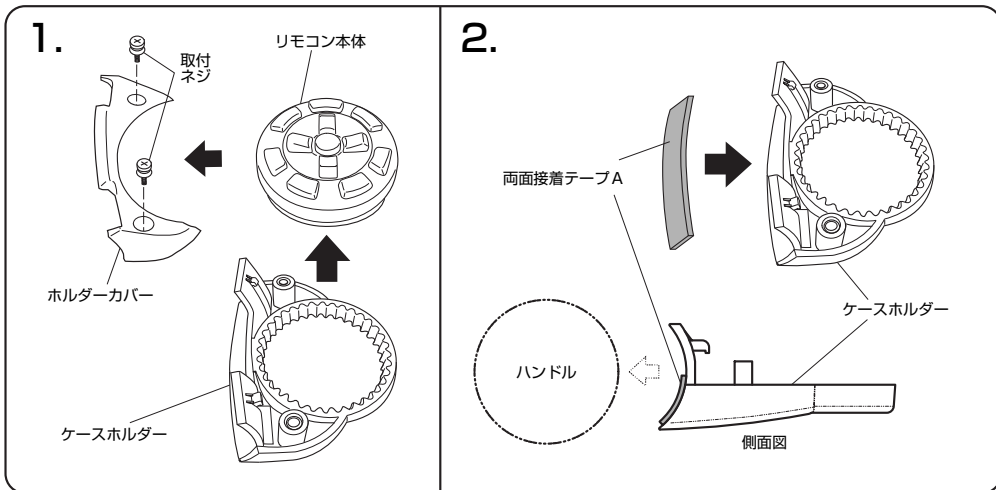
ご注意

- 運転等、操作の支障にならない位置に取り付けてください。
- ディスプレイまたはユニット受光部にリモコンの信号が届く位置を確認の上、取り付けてください。(リモコンの取り付け角度や位置によっては、信号を受信できないことがあります。)
- 脱落防止の為、取付バンドはしっかりとハンドルに巻き付け、確実にツメに引っ掛けて固定してください。
- エアバッグなど車の安全装置を妨げない場所に取り付けてください。
- 車のメーター類の視界の妨げになる場所には、取り付けしないでください。
- 直射日光のあたるダッシュボードの上などには、取り付けしないでください。高温により変形の恐れがあります。
- ハンドルの外側には取り付けしないでください。運転操作の支障になり、交通事故の原因となります。
- ドライビングリモコンは、ハンドルの左または右側のユニット受光部に近い方(右ハンドル車の場合はハンドルの左側、左ハンドル車の場合は右側)に取り付けてください。逆に取り付けると、ドライビングリモコンの信号が届かず動作しないことがあります。
- ドライビングリモコンの取付調整だけで受信がうまくいかない場合、ディスプレイまたはリモコン受光ユニットの取付角度も調整してください。
- 危険防止の為、ハンドル操作中にリモコン操作を行わないでください。

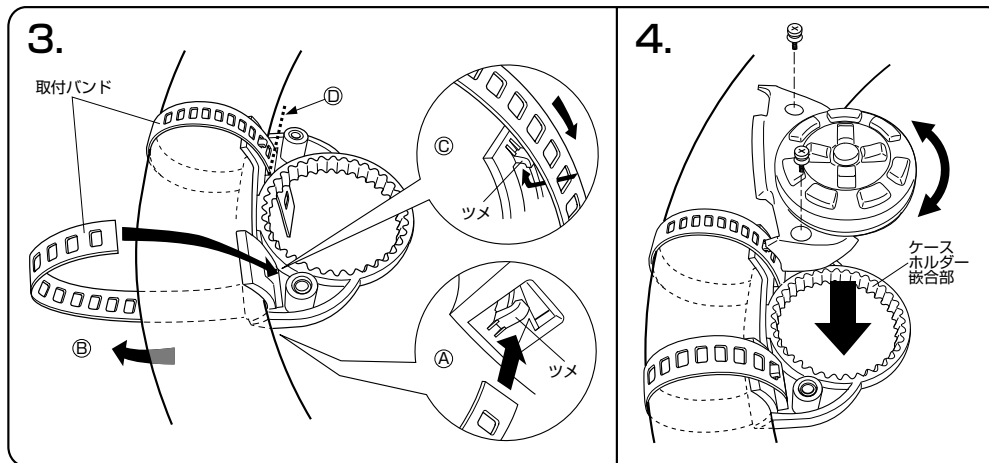
取り付けかた

- 取り付けには両面接着テープを使用するため、取り付け後の移動・微調整が出来ません。上記の注意事項を確認の上、取り付けを行ってください。
- 貼り付け場所の汚れはよく拭き取ってから取り付けてください。

1. ドライビングリモコンの取付ネジ(2個)を外し、下図のような部品状態にします。
2. 両面テープAのセパレータをはがし、ケースホルダー下部に取り付けます。(両面テープAは、ハンドルとの固定に使用します。)

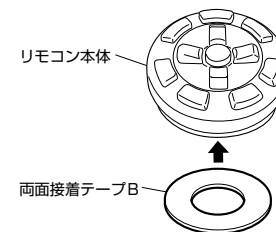


3. ③④：ケースホルダーのツメに取付バンドを引っ掛け、ハンドルに巻き付けます。(作業2で取り付けした両面テープのセパレータをはがし、ハンドルに取り付けます。)
- ③：取付バンドを上部の穴より差し込み、下方にしっかりと引き下げた状態でツメに確実に引っ掛け固定します。
- ④：取付バンドの余りをツメの固定穴より一つ以上穴位置をあけて切り取ります。(ツメの固定穴より余裕のない位置で切り取りますと取付バンド破損の原因となります。)
4. リモコン本体とホルダーカバーを取付ネジで元の状態に戻します。(ハンドルとリモコン本体のボタン配置関係を左右に回転させて調整し、ケースホルダー嵌合部で位置決めをしてください。)



リモコン本体のみ使用の場合

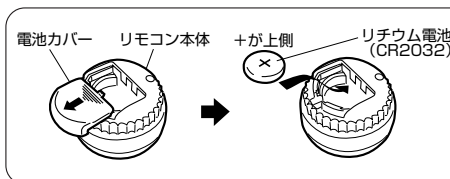
- ハンドル以外に取り付ける場合、両面接着テープBを使用し取り付けることができます。
- 取り付けには両面接着テープを使用するため、取り付け後の移動・微調整が出来ません。前項の注意事項を確認の上、取り付けを行ってください。
- 貼り付け場所の汚れはよく拭き取ってから取り付けてください。



取り外しかた

- 取付バンドは、切って取り外してください。無理に外すとケースホルダーのツメ折れなど破損の原因となります。
- 両面接着テープは、貼り付け面の隅の方からゆっくりと引きはがしてください。
- 気温が低い時は、車内のヒーターを入れるか、ドライヤーなどで両面接着テープ貼付面をあたためるとはがせます。
- 万一、両面接着テープの接着剤が残った場合も、指でこすってはがすことができます。
- 一度接着した両面接着テープは再使用できません。

ドライビングリモコンの電池の入れかた



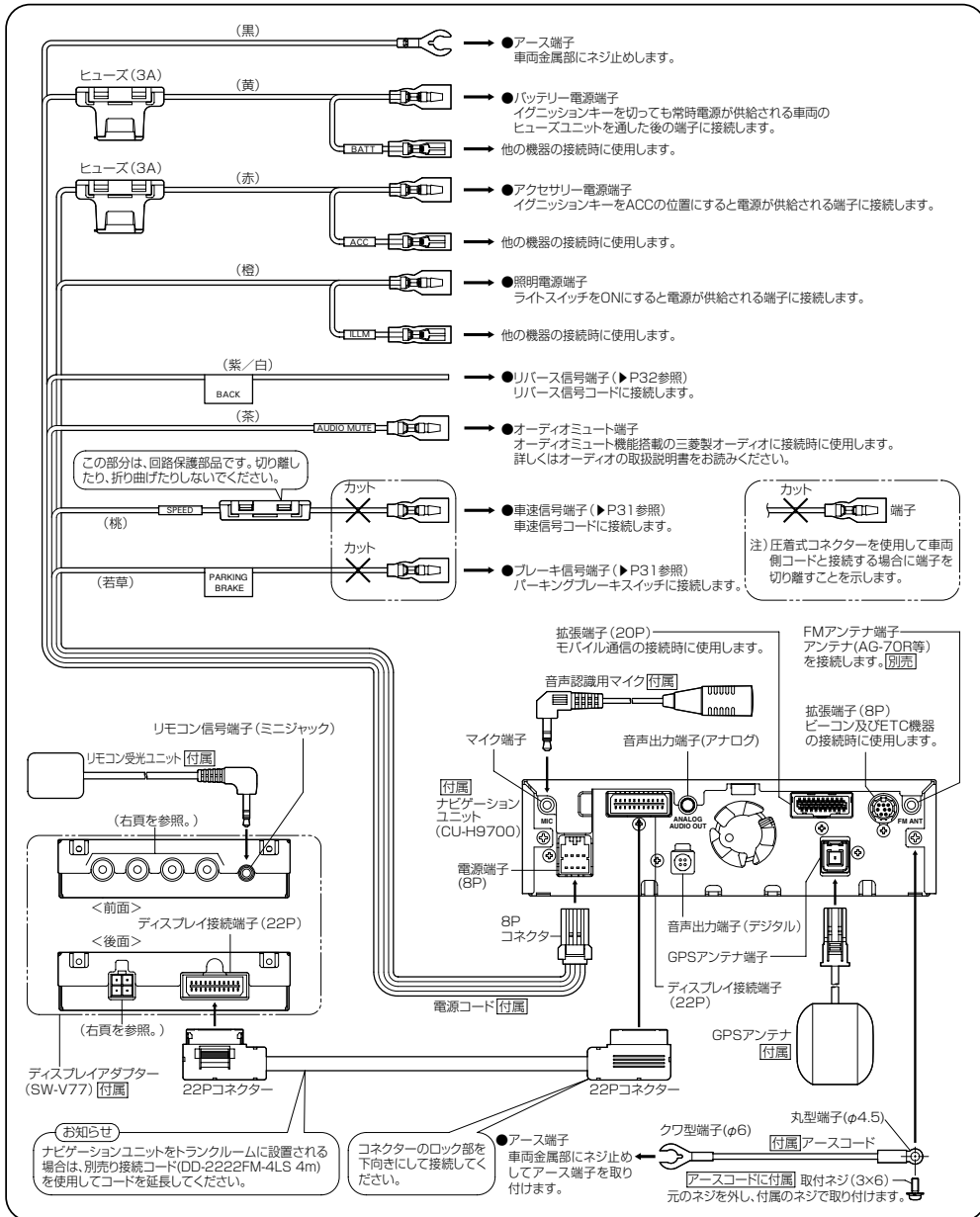
- 初めてお使いになるときや電池が切れたときは、次のように電池を入れます。(リチウム電池CR2032を使用します。)
- 取付ネジ(2個)を外し、リモコン本体単品にします。
 - リモコン本体より電池カバーの上面を少し押しながら矢印の方向に取り外します。
 - 電池の(+)(-)の方向性を確認して入れてください。
 - 逆の手順で電池カバーをリモコン本体に取り付けます。

接続のしかた (CU-H9700の場合)

本機の接続作業は、専門知識また、技術が必要です。
接続作業は、必ず各販売店にご依頼ください。

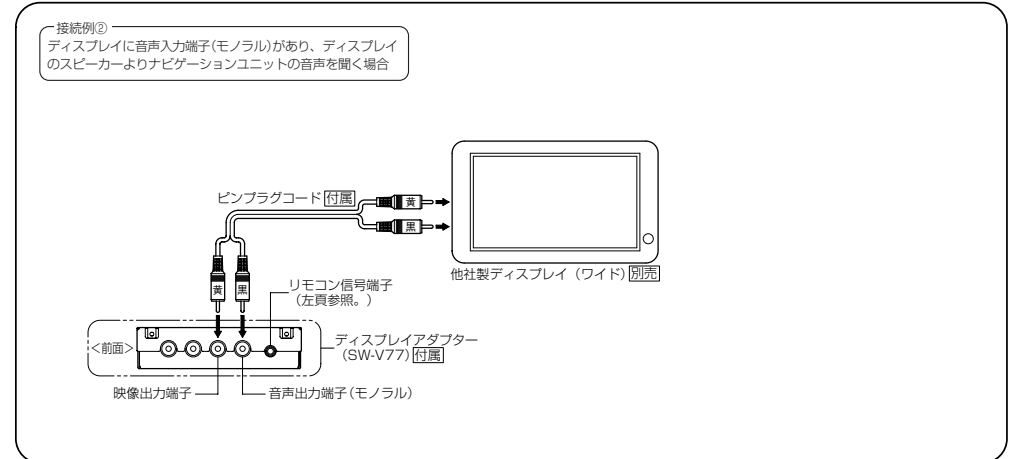
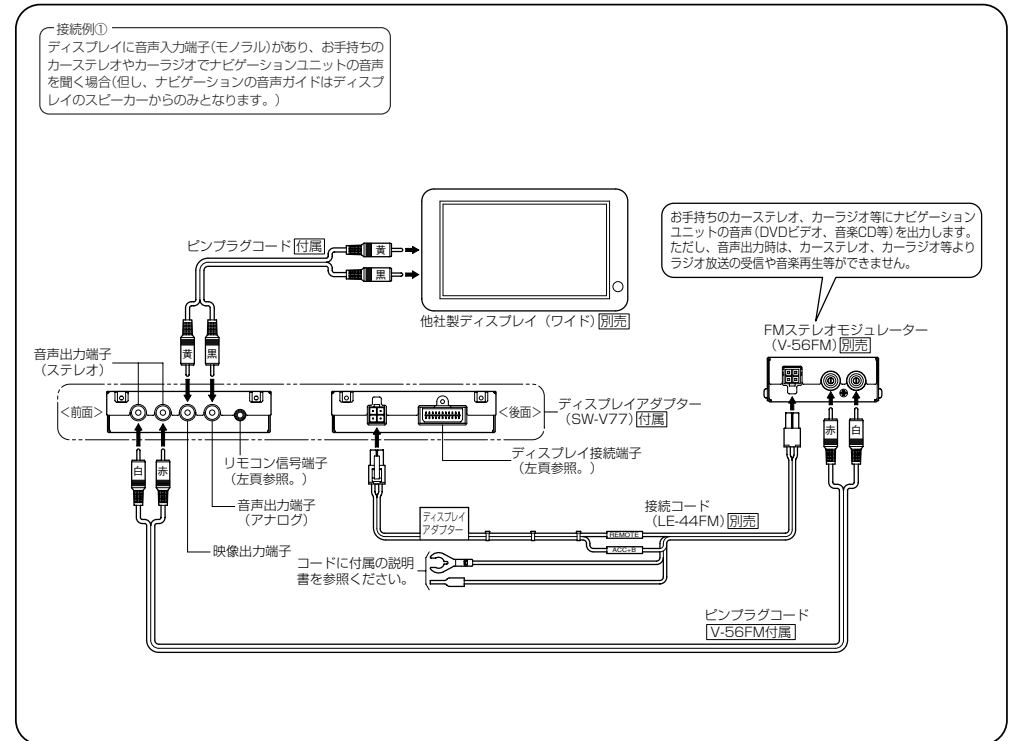
CU-H9700本体 及びSW-V77の接続

(本ナビゲーションユニット(CU-H9700)を他社製ディスプレイに接続する場合は、ディスプレイアダプター(SW-V77)を使用します。本頁を参照しナビゲーションユニット(CU-H9700)とディスプレイアダプター(SW-V77)の接続を行った後、右頁を参照し、ご使用になるディスプレイを接続してください。)



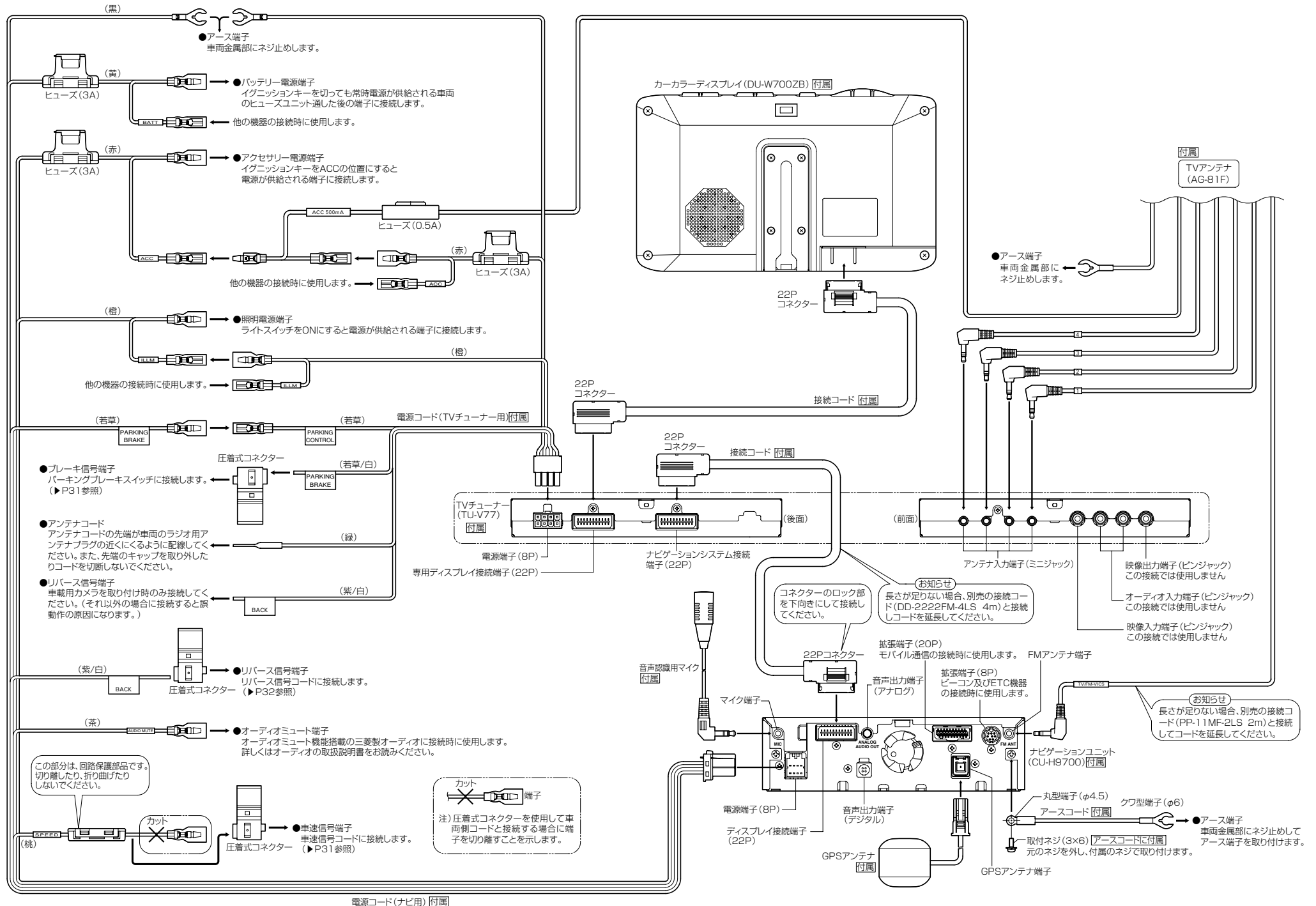
SW-V77→ディスプレイの接続

(ご使用になるディスプレイの種類により接続方法が異なります。下記接続例を参照し、ディスプレイアダプター(SW-V77)とディスプレイを接続してください。)



接続のしかた (CU-H9700VPの場合)

本機の接続作業は、専門知識また、技術が必要です。
接続作業は、必ず各販売店にご依頼ください。



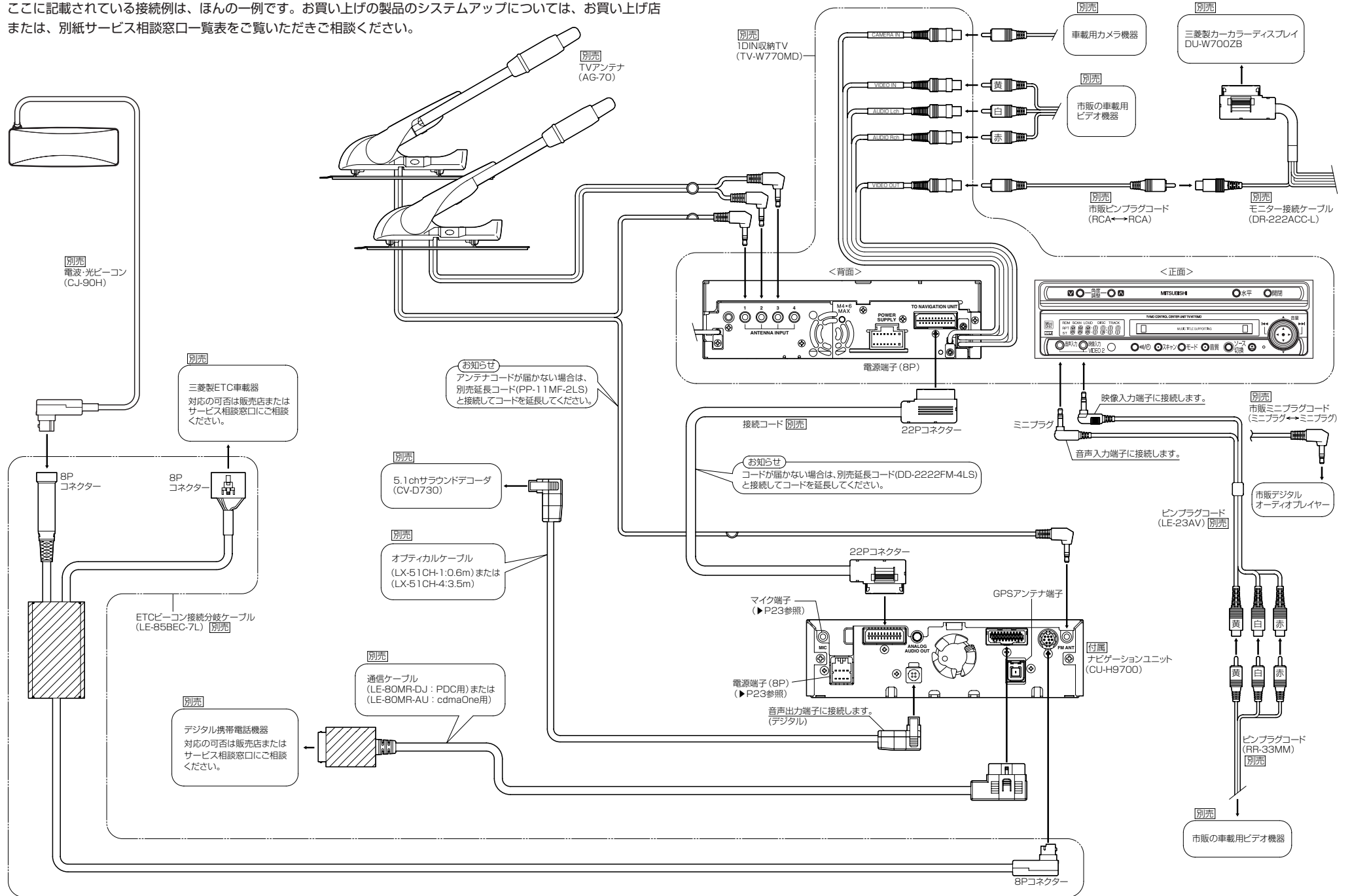
電源コード(ナビ用) 付属

接続のしかた/システムアップ例 (当社製TV/MDセンター

ユニットを使用する場合)

別売品の配線については、各製品付属の説明書をお読みください。

ここに記載されている接続例は、ほんの一例です。お買い上げの製品のシステムアップについては、お買い上げ店または、別紙サービス相談窓口一覧表をご覧くださいご相談ください。



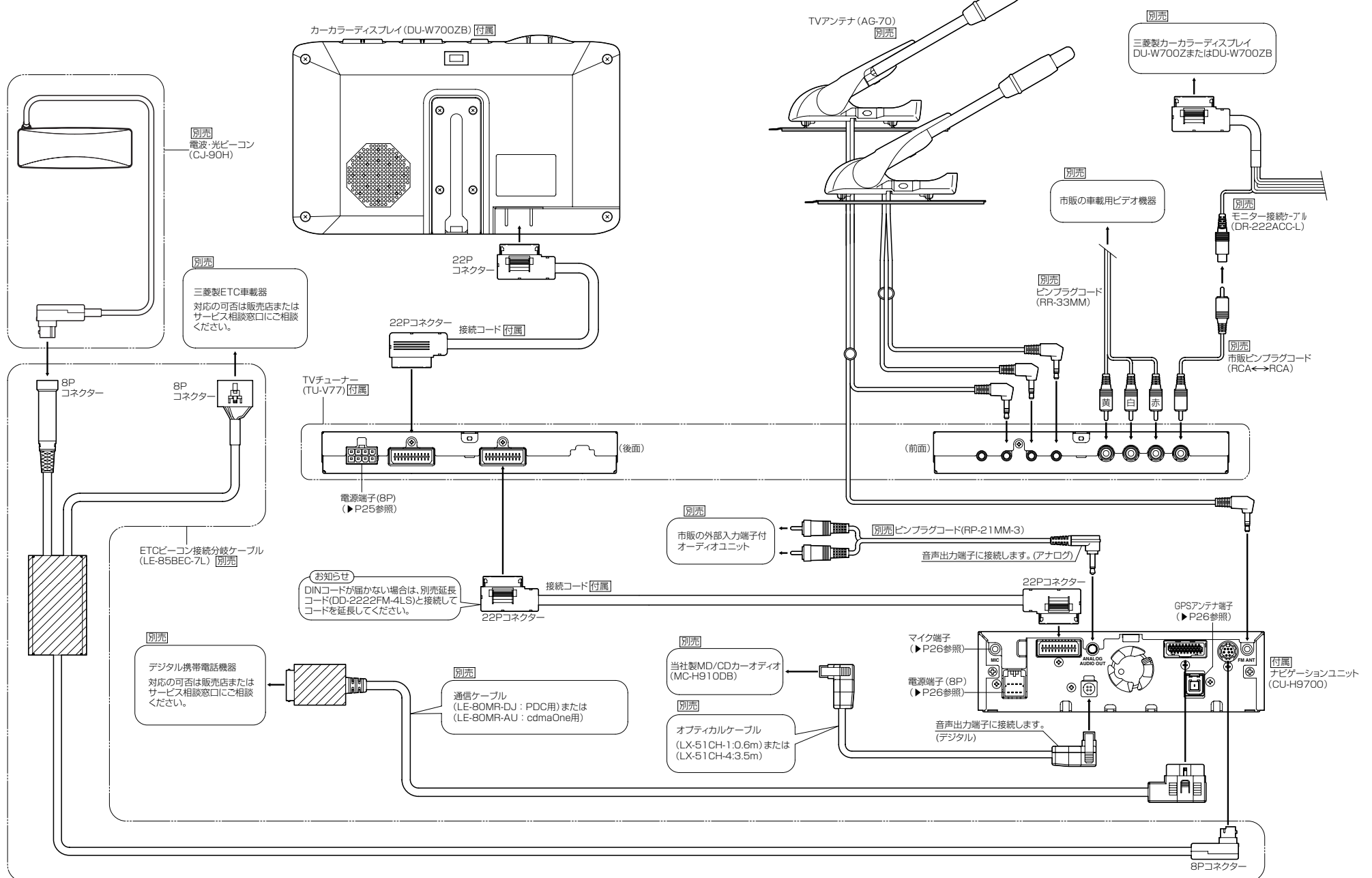
接続要領

接続要領

接続のしかた/システムアップ例 (CU-H9700VP)

別売品の配線については、各製品付属の説明書をお読みください。

ここに記載されている接続例は、ほんの一例です。お買い上げの製品のシステムアップについては、お買い上げ店または、別紙サービス相談窓口一覧表をご覧ください。

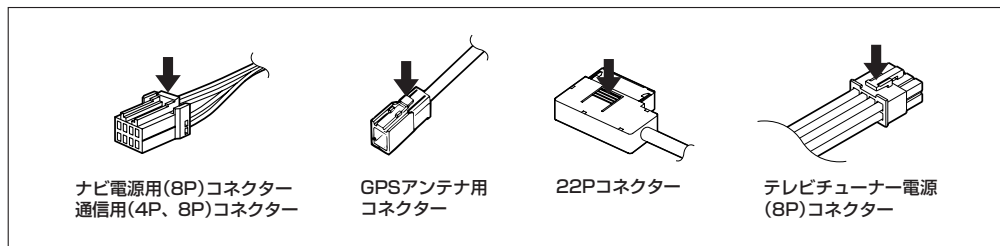


接続要領

接続要領

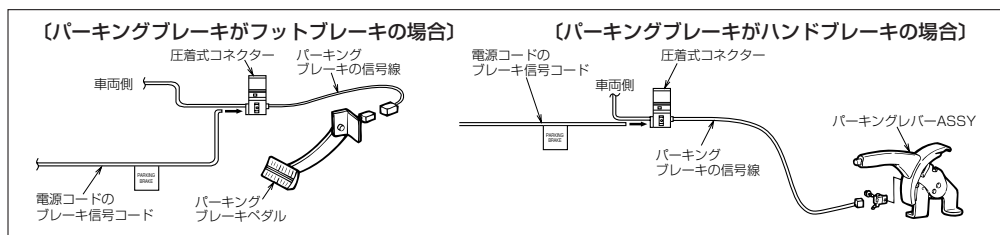
コネクタの脱着について

各コネクタ接続時は確実に奥まで差し込んでください。また取り外す際には、矢印の部分を押しながらコネクタを引き抜いてください。



ブレーキ信号の取り出し方

パーキングブレーキの信号線の位置は車両によって異なります。下記は代表的な例です。詳細については、最寄りの地区別サービス店(別紙サービス相談窓口一覧表をご覧ください。)へご相談ください。



車速信号について

■ 車速信号の取り出しについて

● 車速信号は主にエンジン電子制御装置(ECU)に接続されている車速信号コードより取り出します。これはエンジン電子制御装置が主に室内に取り付けられていて、車速センサー回路から直接取るよりも場所の確認等配線作業が容易に行えるためです。

■ 車両側車速信号コードの位置は

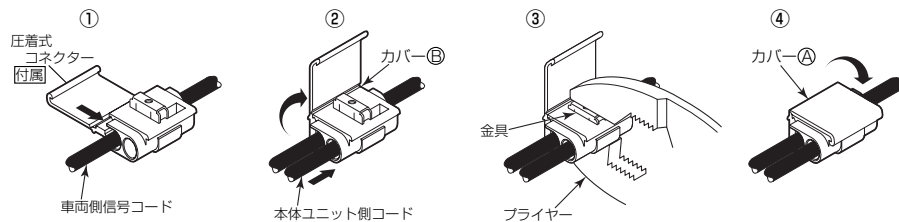
● 車種、年式、エンジン型式の違いにより異なります。車速信号に関するお問い合わせは、お買い上げ店または、別紙サービス相談窓口一覧表に記載の代理店にご相談ください。

お願い

配線終了後、P.33 “接続確認のしかた” をご覧になり、車速信号が確実に取り出されていることを確認してください。車速信号が取り出せない場合、本機は正常に動作しません。

圧着式コネクタの使いかた

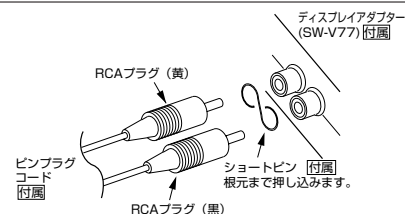
- ① 車両側信号コードから信号を取り出す位置を決め圧着式コネクタ内に通します。
- ② カバー(B) を折り返し指でパチンと音がするまで確実に押し込んでください。本体ユニット側コードの先端を圧着式コネクタに差し込みます。(側面に当たるまでコードを差し込んでください。)
- ③ 上面の金具をプライヤー等ではさみ込み車両側信号コードと本体ユニット側コードを固定します。(コードが外れないように確実に固定してください。)
- ④ カバー(A) を折り返し指でパチンと音がするまで確実に押し込んでください。



ショートピンの使いかた

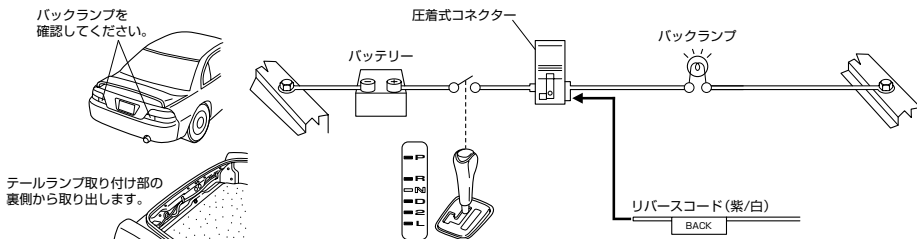
CU-H9700の場合

他社の映像入力端子付ディスプレイおよびテレビシステムを使用する場合に、音声ガイドがディスプレイ側スピーカーより出ない時、付属のショートピンを右図のように取り付けてください。



リバースコードを接続する

チェンジレバーをリバース(R)に入れたとき点灯するバックランプ(後退灯、透明のレンズが付いたランプ)のプラス線にリバースコード(紫/白)を接続してください。



接続確認のしかた（動作チェック）

1. 車両への取り付け、および配線作業終了後、車両のイグニッションキーを<ACC>または<ON>にし、ナビゲーションシステムを立ち上げます。オープニング画面表示後、自動的に現在位置画面になります。
2. GPS測位を確認します。
ナビ本体用リモコンで『モード』キーを押し、メニュー画面から「**車両位置情報**」を選びGPSが測位していることを確認します。GPS受信まで数分かかることがあります。（メニュー画面の見かたは付属の“ナビ本体用取扱説明書”の「ナビ機能」「各種情報を調べる」を参照してください。）
3. 動作チェックを行ないます。
ナビ本体用リモコンで『モード』キーを押し、メニュー画面から「**機能設定**」⇒「**機器チェックと確認**」を選び、各項目の動作チェックを行ってください。（画面の見かたは付属の“ナビ本体用取扱説明書”の「その他の機能」「機能の設定」を参照してください。）

！注意事項

各項目のチェック結果でNGとなった場合は、必ず車両を安全な場所に停車し、取り付け・配線をもう一度確認してください。

4. 車速・ジャイロの初期設定(自動)を行ないます。見通しの良い場所をしばらく走行します。
(車速パルス数は時速20km以上の一定速度で直線道を数km走行することで、自動的に初期設定されます。)
5. 初期設定を確認します。
ナビ本体用リモコンで『モード』キーを押し、メニュー画面から「**機能設定**」⇒「**システムの補正**」⇒「**センサ補正**」を選び画面を確認します。
(センサ補正の確認は“ナビ本体用取扱説明書”の「その他の機能」「機能の設定」を参照してください。)

（手順5で車速パルス数の表示が「-----」の時は、初期設定が完了していないか車速度信号の取り出しが正常でない場合が考えられますので、接続を確認した後、上記4～5を繰り返してください。）

ご注意

- 初期設定中は、自車位置マークが正しく動かないときがあります。
- 車種・年式・エンジン型式により車速パルス数が異なりますので、ナビゲーションユニット本体を別の車両に積み変えた直後は実際の移動距離と異なることがあります。また、タイヤを交換された場合も同様です。

自車位置精度と自動補正について

- 自車位置精度は上記“接続確認のしかた”による初期設定完了後、GPSの受信状態の良い時に、直線道を一定速度で走行しますと自動補正が働き、徐々に精度が向上していきます。
(自車位置精度が安定するまで、場合によっては数時間の走行が必要な場合があります。)
(見晴らしの良い高速道路のような場所を走行しますと自動補正が働き易くなります。)
- これらの作業が終了しますと、直線走行1kmにつき約10mの自車位置精度を得ることができます。